

ミアソン・アトウモロックを訪ねて

(2002年12月11日-12月18日)

中田 章二

この度、山崎さんに同行させていただき、ミンダナオ島 ミアソン・アトウモロック方面を主な目的地として、現地訪問をさせていただきました。ミアソン及びアトウモロックの様子は、既に2001年3月の相田さん、2002年3月の佐々木さんの報告を読み、少しはその状況を理解していたつもりでしたが、「百聞は一見に如かず」現実には想像を絶するものでした。

以下拙い文章ですが、ご報告させていただきます。

衣・食・住

衣

ジェネラルサントスのノビシエート寮と、ミアソン寮の寮生達の服装は、極普通のもので、他に比して何等遜色はありません。しかし、ミアソンの住民たち、アトウモロックの家族達の服装は、粗末なもので、特に子供達は、穴のあいたままで、汚れもひどく、私などは終戦直後の自分を、彷彿とさせる思いでした。日本から古着で良いから、持って行ったらどうだろうかと ふと思う。

食

夕食は豚・鳥・羊の何れかの肉及び骨、又は魚と、野菜とのシチューかカレーのようなものと、米のご飯で、朝は、焼き魚か焼きベーコンか卵焼き等。スープや汁物が無く、食事の時は必ず水が出ました。山崎さんのお話では、普段はもっと粗末な物を食べているとのこと、感謝しながらいただく。しかし、現地の人達が、普段食べている物を、食べてみたいという思いは、強くありましたが、それは私の我が儘かと、深く反省いたしました。

フィリピンの食べ物、どれも私の口に合い、美味に感じた。神父さんが「オイシイ」と私の口真似をする位どの食事でも私にとっては、「オイシイ」かったです。

住

ジェネラルサントスの市街地を、少しでも離れると、家々の壁は竹又は椰子の幹の薄い板、屋根は藁、柱は竹(日本の孟宗竹と同じ太い竹)。ミンダナオ島南部は、台風の通らない熱帯地方の為、雨を凌ぐだけで良いとはいえ、余りにも粗末な家に、ビックリ。アトウモロックでは、母親クラブの会長さんの家を訪れました。床は土間で2坪か3坪の家を2段にして、上段が寝室の様です。テレビで見る、東南アジア方面の高床式の住宅を、目の当たりにして、驚きと同時に、複雑な思いに駆られました。

子供達・寮生達との交流

(1) 最初に寮生に会ったのは、ジェネラルサントスのスタッフハウスに着いた夜、食後、直ぐ隣に新築されたノビシエート寮の食堂へ、神父さんのご案内により行った時です。寮へ近づくと、寮生は皆外に出て、私達を待っていてくれました。そして全員で歌を歌い出しました。山崎さんにお聞きしましたところ、私達を歓迎する歌とのこと。

やがて寮生に取り囲まれ、一人一人全員が握手をして、握ったままの私の手を、額に付ける礼に接し、驚きと喜びにしばし呆然となりました。食堂に全員集まり、そこで神父さん、山崎さんが私を紹介して下さいました。

ミアソン寮の寮生と寮母さん、それにアトウモロックの先生達も、翌日のクリスマスパーティに参加する為、